

燃え盛る御神木 感動的

2月16日(日)

葛黒火まつりかまくら

今年は会場を移して開催



七日市葛黒集落に伝わる小正月行事「葛黒火まつりかまくら」(市指定文化財)が同集落の竜森コミュニティセンター跡地で行われました。暖冬による雪不足のため、例年行われていた集落の田んぼでの開催を断念し会場を近くの竜森コミュニティセンター跡地へ変更しての開催となりました。

当日は荒天に見舞われましたが、大勢の地域住民や子どもたちが燃え盛る御神木に向い「おーいかまくらのごんごろー」と叫び合い、五穀豊穡や無病息災を祈願しました。

今年は雪不足と風雨も重なったため、御神木の立ち上げは安全面を考慮し重機を使用。住民や子ども皆で協力して御神木を立ち上げるのが見られず残念でした。(泣)

夕方6時すぎ、御神木に点火。巻き付けた稲わらや豆がらが勢いよく燃え上がり、御神木の周りでは子どもたちが何度も「おーいかまくらのごんごろー」と叫んでいました。祭りの最後には、焼け残った御神木を小さく切り分け、子どもや見物客の皆さんに無病息災のお守りとして配られました。

葛黒火まつりかまくらは集落に約250年前から伝わる奇祭。集落の山から切り出した高さ10メートルほどの栗の木に稲わらや豆がらを巻き付けて立ち上げ、火を放ち、燃えさかる御神木のまわりで子どもたちが「おーいかまくらのごんごろー」と叫びながら、無病息災や五穀豊穡を祈願する小正月行事。稲わら不足や人手不足を理由に、1999年に一度途絶えていましたが、七日市の市民団体「おさるべ元気くらぶ」が地元住民に呼びかけ、2014年に復活させました。